

九大広報

KYUSHU UNIVERSITY CAMPUS MAGAZINE

01

2018 Jan.

vol.109

【特集】

共創学部 第一期生誕生！

FRONT RUNNER

九州発！金属ナノ粒子を使って
日本酒の“香り”を化学する

九州大学 大学院理学研究院 准教授 村山 美乃

歴史散策

KYUDAI HISTORY STROLL

17

九州帝国大学工学部 造船学実験室

箱崎キャンパスは移転と敷地売却のため建物の撤去が行われていますが、遮蔽物がなくなり存在が明らかになった建物もあります。そのひとつが造船学実験室です。

工学部造船学科は、日本で二番目の造船学科として1921(大正10)年に開設。その際に建てられたのが、造船学教室(1983年頃解体)と現在遺る実験室です。南北方向へ細長い建物で、その見た目から実験水槽と間違えられやすいですが、内部は長い廊下といくつかの部屋で区切られています。長く国内の造船学研究を支え続け、今は活用の可否について議論が続けられています。

市原猛志(大学文書館 協力研究員)



造船学実験室。赤煉瓦が目立つが、外壁基礎部分などに八幡製鐵所製鉋煉瓦も使用(2017年1月)。

目次

32	29	28	27	26	19	18	17	13	11	09	05	03	02
同窓会だより	九州大学基金 28	留学生体験記	世界のキャンパス	Information	受賞のお知らせ	KYUDAI SPECIAL TOPICS	MUSEUM REPORT	Close up 九州大学フォトコンテスト	躍動 弓道部	記者会見レポート	村山美乃 九州大学 大学院理学研究院 准教授	【特集】 共創学部 第一期生誕生！	九州大学法科大学院 「六本松421」へ移転

●医学部同窓会 糟屋支部総会
●文学部同窓会総会・60周年記念式典
●東京同窓会総会・SummerFesta 2017開催
●九州大学工学部銘板モニタメント除幕式
●アカデミックフェスティバル2017(ホームカミングデー)

表紙について

辺りは薄暗く、夜が明けたばかり。新たな一日の始まりを告げる黄金色の光が九州大学伊都キャンパスを照らしています。

2005年、工学系の移転を皮切りにスタートしたキャンパス移転事業。今年の秋には新中央図書館と文系地区、農学部の移転が完了し、10年を超える時を経て、ついに伊都キャンパスが完成します。さらに、約50年ぶりの新学部となる「共創学部」が設置され、4月には一期生が入学します。

2018年は「新たな九州大学」の幕開けの年。門出を迎えた伊都キャンパスを祝福しているかのように、まばゆい朝日が降り注いでいます。

■編集・発行：九州大学広報室 〒819-0395福岡市西区元岡744
■TEL:092-802-2130 ■FAX:092-802-2139
■E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
■Webサイト:http://www.kyushu-u.ac.jp/
■印刷：株式会社ミドリ印刷 ■編集協力・取材：株式会社チカラ
■撮影：岡本正人、加来和博、中西ゆき乃、平川雄一郎
■デザイン：才原貴生 (Office Chameleon)

◎お読みになってのご感想やご意見をお待ちしています。
◎本誌記事を転載する場合は、事前に九州大学広報室までご連絡願います。
◎「九大広報」は九州大学Webサイトでもお読みいただくことができます。
◎次号は、2018年4月発行予定です。

九州大学法科大学院 「六本松421」へ移転



提供: JR九州、撮影: (株) エスエス

2009年の六本松キャンパスの廃止後、再開発が進められていたキャンパス跡地には、2017年9月に複合ビル「六本松421」が建設され、この3階に法科大学院が箱崎キャンパスより移転しました。2018年以降に裁判所、検察庁および弁護士会館が移転される予定となっており、本学ではこの六本松跡地に「リーガル・パーク」という愛称をつけ、全国でも例のない法曹三者と密接に連携した法曹養成教育を目指しています。 *詳しくは21ページのトピックスをご覧ください。



旧六本松キャンパス正門(2007年撮影)



大通りと正門(1959年撮影、九州大学大学文書館提供)



旧六本松キャンパス空撮(2002年撮影)

【特集】共創学部 第一期生誕生！

AO入試で初の合格発表！



ずっと目指していた憧れの九州大学をバックに

11月27日(月)、共創学部AO入試の合格者が発表されました。午前11時、伊都キャンパスの掲示板には合格番号が張り出され、合格者は番号を見つけて家族や友達と喜び合い、笑顔を浮かべていました。合格者は定員より2人多い22人。今回、合格者の一人、木村紗彩^{さあや}さんにお話を伺いました。

おめでとうございます。今どんなお気持ちですか。

ずっと志望していた学部なので、本当に嬉しいです。来年から九州大学に通えるのが夢みたい。合格の知らせは、伊都キャンパスで発表を見た工学部に通う兄が、すぐに母に連絡して、母から高校に連絡をしてもらい聞きました。今でも信じられないほどです。早くこの喜びと感謝を応援し支えて下さった全ての方に伝えたいです。

どうして共創学部を志したのですか。

高校1年生のときに21世紀プログラムのオープンキャンパスに行き、自らが設定したテーマに取り組めるということに魅力を感じました。あるとき、21世紀プログラムが募集停止になり、共創学部が設置されると聞いて、最初は不安でした。でも、私が学びたいことを深く勉強できるのは、共創学部しかないと思ったんです。合格をいただけて、やっと目指すところに立てました。

もともと21世紀プログラムを目指していたのですね。

はい。地域の課題解決に興味があったんです。中学校2年生のときに、北九州青年

会議所主催の「北九州ドリームサミット」に参加しました。そこで議長という役職に就いて、北橋健治北九州市長と一緒に、地域の課題解決に取り組みました。翌年からは「JCI JAPAN 少年少女国連大使」に選拔され、地域から世界へ目を向けるようになりました。ニューヨークの国際連合本部で「貧困と飢餓」をテーマにプレゼンテーションしたり、フィリピンの貧困地域で現地調査をしたりしました。また、小学校2年生から11年間、数字から現状を把握して考える「統計グラフコンクール」という活動をしています。昨年は「食品ロス」というテーマで、全国で1位、また日本品質管理学会賞も受賞できて嬉しかったですね。こういう今までの活動で、私が興味を持って取り上げてきたテーマを、共創学部でさらに深く学べると思ったんです。

共創学部の魅力はなんだと思いますか。

自分が向き合いたいテーマに対して多面から学び、考えることができる。そんなことができる学部ってなかなかないですよね。それに、「したい」と思ったことにすぐ取り



朝11時から貼りだされた22名の合格者番号

組めるような環境が整っていて、他の学部の方とたくさん関われるのも魅力の一つです。先生方もプロフェッショナルな方がそろっているのので、自分の知らないことをたくさん学びたいと思っています。

入学までの約4カ月間はどのように過ごしたいですか。

語学力がまだまだ足りないので、英語を勉強して資格にも挑戦したいです。一般入試よりも合格をもらうのが早く、その分、入学までにできることが多いので、まずは共創学部が必要とするコミュニケーション力や語学力をいろんな交流を通して身に付けたいと思っています。私は入学してから4年間、貧困や飢餓をテーマに学ぶ予定です。今、北九州青年会議所の方と共に国際・地域的な課題解決について若者が考える会議体を企画し、活動させていただいています。そこで学んだことは大学生になっても役に立つ。そう信じて見聞を広げていきます。

入りたい部活動やサークルはありますか。

高校生のときに放送部に入っていたので、声を届けたり人前で発表したりできる部活動やサークルを考えています。「人に伝える」ことが好きなんです。私がずっとテ



工学部2年生のお兄さんと一緒に番号を確認する紗彩さん

マにしてきた貧困と飢餓の問題を世界に伝えていくうえでも大事なことだと思っています。

将来の夢はありますか。

「将来は国際連合の職員になりたい。もしくは、自分を変えてくれた北九州の市長になりたい」とAO入試の面接では堂々と言いました(笑)。グローバルで活躍すること、自分に身近な問題を取り上げること、もしていききたい。共創学部で学べば、どちらの夢も叶えられると思っています。これから推薦入試や一般入試で入ってくる新入生の方と4年間一緒に勉強できるのが楽しみです。新学部なので周りからも注目してもらっています。そんな中で自分が活躍できる場を広げていきたいと思っています。

message to prospective students

Appleの創業者スティーブ・ジョブズの名はご存知のことでしょう。彼は高校卒業までにコンピュータ設計をマスターし、その後インドを放浪、禅に打ち込むようになります。iPhoneやMacはコンピュータと禅のミックスから生み出されたともいわれています。

「心から満足したいなら、自分が素晴らしいと信じる仕事をするしかない。そして素晴らしい仕事をしたいなら、自分が愛する仕事をするしかない。それがまだ見つからないなら、探し続けることだ。心の問題と同じで、そういう仕事が見つければピンと来るものだ。」(ジョブズ)

若い皆さんにはジョブズに劣らぬよう満足のいく仕事をみつけてほしいと思います。そのために「ピンと来る」ものを共創学部で探しませんか。皆さんと共に学べることを楽しみにしています。



教授 鏑木 政彦
Masahiko Kaburagi

学位: 博士(法学)
専門分野: 政治思想史

「フロンランナー」は九州大学の若手研究者の最前線をインタビュー形式で紹介するシリーズです。

九州発！金属ナノ粒子を使って 日本酒の“香り”を化学する

扱うのは数ナノメートルの金属粒子。

この粒子を使って

ちょっと古くなった日本酒をおいしく生まれ変わらせます。

今回は大学院理学研究院准教授・村山美乃先生に

触媒に興味を持ったきっかけや

金属ナノ粒子の研究について伺いました。

九州大学 大学院理学研究院 准教授

村山 美乃 Haruno Murayama

1997年 3月 千葉大学 工学部応用化学科卒業

1999年 3月 千葉大学 大学院自然科学研究科 博士前期課程物質工学専攻修了

2002年 3月 千葉大学 大学院自然科学研究科 博士後期課程物質高次科学専攻修了

4月 分子科学研究所 博士研究員

2003年 4月 フランス国立科学研究センター 博士研究員

2005年 4月 高輝度光科学研究センター (JASRI) 協力研究員

2007年 4月 中央大学 理工学部応用化学科 助教

2010年 2月 京都大学 産学連携本部 特定助教

2015年 3月 九州大学 大学院理学研究院 准教授

「もつと知りたい」と思う 好奇心が研究の原動力

—まず、先生の研究分野について教えてください。

卒業研究のときから、固体触媒などの「構造解析」の研究をしています。「構造解析」とはその物質のサイズや結合状態について、原子、電子のレベルで、細かく調べていくことです。例えば、「情報を素早く書き込めるDVDはどのような構造なのか」、「たくさん電気が蓄えられる電池はどのような構造なのか」といった分析をします。モノの構造を知ることが、化学全般に応用できます。今はその構造解析を軸に触媒とナノ粒子を主に研究しています。

—なぜその研究を始めたのでしょうか。

触媒との初めての出会いとなった高校の教科書では化学反応式の矢印の上に「触媒」と小さく書いてあるだけなんです。ただ、この「触媒」が化学反応をコントロールしているとしたら、これを研究するのが化学を勉強するなかで一番面白いんじゃないか

な、と。実際に研究を始めると、高校で勉強していた内容からは想像もつかないような知らない世界が広がっていて、今もその世界にとっぷりと浸っています。

—それでは現在の主な研究テーマとなる「金属ナノ粒子」の研究はどのようなものでしょうか。

もとは固体触媒のなかにナノ粒子も含まれるので、こういったサイズや結合状態で触媒ができているのかを主にX線を使って調べていました。学位取得後にポスドクになった分子科学研究所や中央大学で、金属ナノ粒子のサイズや形状をコントロールする研究をしました。九州大学に着任してから、できるだけ小さい金ナノ粒子を作る研究を始めました。硫黄化合物をたくさん吸着させるためには金属の表面積を大きくした方が効率的なので、数ナノメートルほどの小さい金属粒子が研究対象です。年に少なくとも4回は佐賀県鳥栖市にある九州シンクロトロン光研究センター

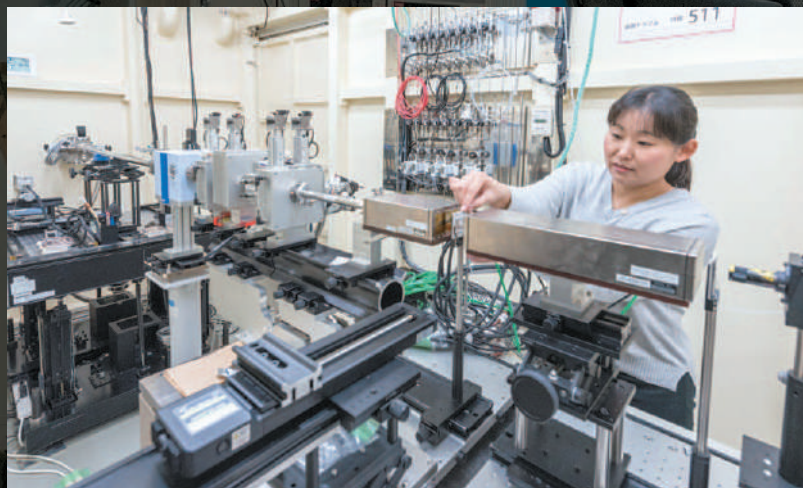
(SAGA-LS)内に九州大学が設置している九州大学ビームライン(九大BL/BL06)に行き、研究を進めています。ここは、日本に数カ所しかないX線の実験装置がある施設で、これを使ってナノ粒子の構造解析をします。その実験データがないと次の研究に進めないほど、なくてはならないものです。

—現状、どのような事を研究しているのでしょうか？詳しく教えてください。

今、研究しているものとして、日本酒の貯蔵中に生じる好ましくない香りの原因となる硫黄化合物のみを除去する方法を研究しています。

同じ触媒有機化学研究室の徳永信教授が日本酒が好きで、「もつとおいしくならなかな」と考えて始めました。日本酒に入っている硫黄化合物が金属ナ

ノ粒子に吸着されるのではないかと気づき、試してみるとうまくいったんです。最初に徳永先生から日本酒と聞いたときは「そんな発想をされるなんて!」と驚きましたが、すぐに「面白そう」と興味を持ちましたね。徳永先生は有機化学、私は無機化学の研究者で違う分野を専門にしているのですが、得意分野を生かして、お互いが補っているような感覚ですね。



九州大学ビームライン(SAGA-LS/BL06)でのXAFS実験



3種の日本酒(黄ラベル:純米酒、白ラベル:大吟醸酒、赤ラベル:長期熟成酒)・素ろ過・活性炭・金ナノ粒子:それぞれ真ん中の瓶では活性炭による脱色が激しく、香りの分子も失われやすい

香りの違いが 誰にでもはつきりと分かる

—日本酒に入っている硫黄化合物を吸着して取り除くと、日本酒はどのように変わるのでしょうか。

日本酒は微生物によるいくつかの化学反応を経てつくられます。醸造後は加熱殺菌によってその反応は止まるのですが、その後もゆっくりと化学反応が進みます。そのときに「老香^{ひねか}」という劣化臭が発生することがあります。酒造会社では活性炭で臭いを消すのですが、良い香りまで取ってしまう。でも金属ナノ粒子を使えば劣化臭のみを消し、日本酒そのものが持つフルーティーな香りは残すことができるんです。

—日本酒の香りを比べさせていただき、私たち素人でも分かるほど香りの違いを感じました。実際に、先生が最初に比べてみたときは、どう思われましたか？

香りが全然違って驚きました。違いがすぐに分かるのはすごく大事なことですよね。研究によっては、結果のデータを見ても専門

家しか読み取れないこともあり、ますが香りはダイレクトに伝わるので、誰にでもすぐ分かります。この研究の魅力の一つだと思います。以前、高校の出前講義で実際に「金属ナノ粒子を吸着剤として使った老香入りエタノール」と、「普通の老香入りエタノール」を持って行きました。高校生にも香りの違いがはつきり分かったようで、すごく興味を持ってくれたんです。嬉しかったですね。

—日本酒の劣化臭を消す製品の実用化も進められているのでしょうか。

今までは、研究の成果が出ればひとつの目標達成だと考えていました。でも、実際に製品化するにはその先に、まだ壁があることを知りました。研究者はものづくりには詳しくてもビジネスについては明るくない。例えば、商品にするにはどんな形だと使いやすいのか、ターゲットは誰かなど、

技術面以外のことも考えなければなりません。今の段階は、技術という点では9割ほど成果が上がっていますが、商品という意味ではまだまだ半分にも達していません。もし販売できる状況になっても「もっと性能が上がった良い」、「もっと安く販売できた良い」と考えてしまうと思います。満足のいくものが完成するには時間がかかりそうですね。



村山先生(左)と徳永先生(右)

たくさんの人と関わるからこそ コミュニケーションを大切に

——研究を進めるうえで、他分野の先生たちと関わるが多いようです。

今回は日本酒に関わる研究なので、農学を専門にする先生方とも共同で進めました。お互い、同じ内容を表現するのにも違う言葉を使うときがある。だから、しっかりコミュニケーションをとることを心がけています。さらに、

この研究室では分野の枠にとらわれず積極的にチャレンジする姿勢を大事にしています。だから今までに知り合った他分野の先生に連絡して、分からないことを教えてもらうこともよくあるんです。いろんな先生方と1日に何通もメールで連絡する、分かりやすいように写真を添付して送るなど、しつかり意思疎通を図るように徹底しています。

——先生は研究においてもコミュニケーションを大事にされているように感じました。

ポストク2年目のときにフランスへ留学するために、日本語の上手なフランス人の研究者の面接を受ける機会がありました。その方は日本語が上手で、今よりも英語ができなかった私はとても助かったのですが、私の履歴書を見て「あなたはまだ若くてキャリアも積んでいない。もつともっとこれから勉強することがたくさんある。誰とでもコミュニケーションをとって、一人で抱えずにいるんな人に相談しながら元気に研究できすか」と言ってチャンスをくれました。この言葉がずっと心に残っていますね。研究は一人では進められないので、誰かに相談する習慣をつけるようにしています。前に進むために多くの人と関わりながら取り組む姿勢を持ち続ける。そうすればそこまでキャリアがなくても仕事をもらえるチャンスはあると身をもって感じています。

——研究のゴールはどこに定めていらっしゃるのでしょうか。

今まで研究をしていて、もうこ

れで充分と感じたことはないです。論文の発表や技術の実用化など、小さなゴールはたくさんありますが、まだまだ道は険しい。満足のいく答えにたどり着くまでは長い道のりです。一つ進んだと思っても、分からないことや知りたいことがまた出てきてしまつて(笑)。世の中の状況が変わると触媒が働く環境も変わるので、新しい触媒が必要になります。時代の変化に合わせて必要なものがどんどん変わっていくので、次々と新しい興味が湧いてきます。ゴールはなかなか見えないですね。

——先生の好奇心や「まだまだ」「もっと」と走り続けている姿勢が、学生たちを惹きつけているのですね。本日はありがとうございました。

今回の聞き手

学術研究・産学官連携本部
産学官連携推進グループ
研究推進専門員(UR A)
松園 裕嗣



*研究推進職(UR A・University Research Administrator)とは研究開発に係る企画立案・資金の確保、知的財産の取得および活用、その他研究開発に係る業務に従事する専門職。

村山先生に聞く! Q & A

Q 研究の息抜きにしていることは
A 食べるのが大好きで、研究の「ごほうび」によくチョコレートを味わいます。チョコレートは冬になると限定商品がたくさん出ますよね。「限定」という言葉に弱くて(笑)。今だけ!と思ってしまう種類のものを集めています。



至福のひとつ

Q 先生の趣味は

A 料理です。料理も実験と同じで、分量を少し変えれば味が変わってきます。自分が食べたいものをつくるのですが、調理後に食べてみると「この味じゃない!」と思うこともあるんです。そのときは満足のいく結果が出るまでつくり続けてしまいます。習慣で実験のように量つて、ノートに書いて...としてしまいうになるのですが、趣味なので、絶対に記録は取らないようにしています(笑)。

Q 学生たちへ伝えたいことは

A 自分が専攻している分野だけでなく、他科目の基礎的な勉強もすることです。研究を進めるうえで、英語を使う場合や解析をしなければならぬことがあります。私は、そんなときにはいつも、学生時代にもっと英語や数学を勉強しておけばよかったと後悔しています。だから少しでも他科目に興味を持って、できることを増やしていけば良いと思いますよ。

フランス留学時の貴重な体験談を語る村山先生

記者会見レポート



記者会見の様子

サイエンスの魅力と身近に出会える場！

六本松キャンパス跡地に 「福岡市科学館」 10月オープン！

芸術工学研究院

教授 平井 康之 ひらい やすゆき

日本初の「科学館PFI事業」
がスタート

平成29年10月1日(日)、九州大学六本松キャンパス跡地に「福岡市科学館」が開館しました。名誉館長は九州大学卒業・大学院修了の若田光一宇宙飛行士。福岡市は民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスを提供する「PFI事業」で日本で初めて「科学館」を整備・運営します。

九州大学は、PFI事業の代表企業である「株式会社トータルメディア開発研究所」と、平成28年8月1日から「福岡市科学館特定事業におけるサイエンスコミュニケーションの共同研究・開発」に連携して取り組んできました。今後は、福岡市のポテンシャルを最大限に生かして、科学と感性を融合させた新しい科学館で研究成果を公開します。

「福岡市科学館」のテーマの一つは「市民が科学に興味を持つ環境づくり」。サイエンスコミュニケーションの共同研究・開発に取り組み、科学や技術情報の収集・調査、新しい科学館運営に必要な課題を検討することに加え、研究者やクリエイターと子どもたちが直接、交流できる仕組みを構築することを目的としています。

新しい科学館運営に向けた
仕組みづくり

また、デザイン思考を使ったサイエンスコミュニケーションの開発手法を作り上げ、科学館事業の「核」としてさまざまな活動に応用・展開することを視野に入れています。

科学館のメインとなる「宇宙」「環境」「生活」「生命」、未来を考える「フューチャー」のテーマで構成される基本展示では、各研究院の教員が学術的なアドバイスと監修をしました。

今後は、2年おきに計画・実行される基本展示の更新にも監修等を継続していく予定です。また、九州大学などの研究成果を科学館で発信、紹介する機能を持つ「サイエンス&クリエイティブラボ」では、身の回りの生活環境や身近な製品・システムについて、①科学技術のアプローチと②クリエイティブやデザインのアプローチ、二つの方法で紹介しています。

一方、各方面の有識者、事業者が館の「運営方針」「将来構想」について検討する「サイエンスコミュニケーション開発会議」に九州大学の関係者がメンバーとして参加し、新しい科学館運営の中核を担っています。

この会議では、今後の科学館運営の方向性を協議し、「科学

情報の受発信」「教育プログラムの開発」「展示事業の発展的更新」「地域活性化のためのステークホルダーとの連携」などの方向性を決定していきます。

福岡の未来を創造する
科学館を目指して

今後は、福岡市科学館・大学研究機関・民間事業者などが、地域の科学リテラシーの向上や、課題解決の科学連携ネットワークの構築などを目標に連携し、外部資金の確保にも積極的に取り組んで行く予定です。

同時に、博士研究員や若手研究者が専門領域やサイエンスコミュニケーション力の強化を目標として、科学館の企画開発や教育普及活動に参加し、キャリアアップ機会の創出ができる計画を進めています。

福岡市科学館の理念は「人が育ち、未来をデザインしていく科学館」。福岡市のPFI事業に、国立大学法人である九州大学と民間事業者が連携する初めての試みによって、科学館を拠点とした新たな交流と人材育成を構築し、市民と共に未来の福岡を創造する「未来創造型ミュージアム」を目指します。

福岡市科学館について



生命コーナー「ないぞうチェック」

監修：医学研究院 先端医療医学部門 主幹教授 橋爪 誠
医学研究院 臨床医学部門 教授 本田 浩

福岡市科学館は、九州最大規模の「ドームシアター」、5つのテーマで構成される「基本展示室」、企業が出展する「連携スクエア」、さまざまな科学情報を提供する「サイエンスナビ」などで構成されています。平日は一日学習での福岡市内の小学校4年生、土日祝日は福岡県近郊から利用者が多数来館し、新しい科学館の展示

やドームシアターの番組を楽しんで頂いています。10月開館以降2カ月間で既に約25万人の利用者で賑わっています。

科学者とクリエイターが子どもたちと科学館で直接触れ合い、科学の不思議を解き明かすことで、将来、多くの科学者とクリエイターが科学館から生まれることを目指します。



生活コーナー「フライトシミュレーター」

監修：工学研究院 航空宇宙工学部門 教授 麻生 茂



未来を考えるフューチャー展示「サイエンス&クリエイティブラボ」

監修：芸術工学研究院 デザインストラテジー部門
教授 平井 康之

代表者から一言

福岡市科学館と共にサイエンスコミュニケーションとデザインの融合についての共同研究を進めてきました。福岡市科学館の提唱するサイエンス&クリエイティブのコンセプトの根幹をなす研究です。特にクリエイティブをコンセプトに取り入れた科学館は日本で初めてです。今後このコンセプトを実現化する展示や教育プログラム開発につなげていきたいと考えています。

問い合わせ先 芸術工学研究院(担当/平井): hirai@design.kyushu-u.ac.jp
株式会社トータルメディア開発研究所(担当/佐藤): m-sato@totalmedia.co.jp
産学官連携推進グループ(担当/遠藤・岩井田): alliance@airimaq.kyushu-u.ac.jp



躍動

弓道部

学生スタッフが取材・執筆を担当する企画「躍動」。
タイトルは取材に協力した各サークルの代表者が書いています。
個性あふれる手書き文字に、サークル活動への熱意を感じます。

その一矢に想いを乗せて

張りつめた空気の中、静寂を切り裂く一矢が放たれる
“強くなりたい”想いを乗せて…

今回の躍動では、弓道場の改修により新道場で
新たな一歩を踏み出した弓道部の今に迫ります。



全体練習風景

部員の半数が初心者 勝利というゴールを目指し 心を一つに

弓道はどのような競技ですか。

緒方 アーチERYと似ているようですが、道具も距離も異なります。また弓道は的に中^{あた}った場所ではなく、36 cmの的に入った数を競います。

後藤 試合はほとんど団体戦です。基本的に男子は5人1チーム、女子は3人1チームです。チームの合計的中(的に中った数)を競います。

澤田 私は高校で違う部活動に入っていたのですが、大学の新歓ガイダンスで先輩方の姿勢をかつこいいなと思い、それがきっかけで入部しました。

後藤 僕は高校で弓道をしていたのですが、引退試合が悔しい結果で終わってし

まいしました。皆がひたむきな九大弓道部でならその時の雪辱を晴らせると感じたので、入部しました。

初心者で入っても大丈夫ですか。

澤田 部員の半分が初心者だったので、大丈夫です。基礎的な練習を経て、二、三カ月でみんな的に向かって引けるようになります。弓の重さは500 mlペットボトル一本分で引く強さも自分の力に合わせられるので、心配ご無用です。

何をモチベーションにしていますか。

緒方 チームで勝つ喜びや達成感を味わうことをモチベーションにして頑張っています。

澤田 全ての所作がきれいに決まり、的に中つたときの嬉しさがモチベーションにつながっています。そのため、一本一本の積み重ねを大切にしています。

課題はありますか。またそれを克服する方法はありますか。

後藤 的中率を安定させることです。そのため、一つ一つの所作をルーティン化させ、毎日弓道に触れることを重視しています。

澤田 時々不調になることが課題です。そのような時はやみくもに引くのではなく自分の状態を冷静に分析して、練習するように心掛けています。

九大弓道部の魅力を教えてください。

緒方 勝利という一つの目標に向かって仲間とともに本気になれることだと思います。また、弓道を通して新たな人との繋がりが生まれることも良いところです。

澤田 弓道が大好きで熱心に練習している

人がいる環境で、ほぼ毎日のように共に切磋琢磨できるということが魅力だと思います。

後藤 他の競技とは違い、全員の役割や動作が同じなので、方向性が一致し、部としてまとまると思います。

弓道部として今後の目標を教えてください。

後藤 九州大会で上位入賞し、全国大会に出場することを目指しています。また、部員全員の的中率を上げることも目標としています。

高校生や読者の方にメッセージを下さい。

澤田 初心者の方でも、チームに入って一緒に戦うことができるようになります。

DATA



◎部員数:42名(男女比 4:3)

◎活動場所:伊都地区弓道場

◎活動日:火木金土曜日の週4日

◎問い合わせ先

メール:kyudaikyudoubu@hotmail.co.jp

Webサイト・HP:http://qdaikyudobu.sunnyday.jp/wp/

Twitter:https://mobile.twitter.com/qdaikido

FOCUS

「九州学生弓道選手権大会」

10月に開かれる九州の大学の集まる大会です。私達はこの大会で上位入賞を目指しています。

「西日本学生弓道選手権大会」

7月に西日本の大学の集まって戦う大会です。

「全日本学生弓道選手権大会」

8月に全国の大学の集まり、開催地で団体予選をします。そして、上位校のみがトーナメントに出場する大会です。

「春・夏合宿」

3月と9月に合宿を行っています。

この記事は、広報室学生スタッフが制作しました。

(左から)

下山 ちひろ(理学府2年)

小野 聖文(農学部1年)

坂元 渚(農学部1年)

原 倭平(工学部4年)

平田 颯彦(工学部1年)



<https://www.facebook.com/KyushuUniv.Student>

取材協力



後藤 岳さん
(第59代 主将)
法学部2年



澤田 菜菜さん
(第59代 女子副将)
工学部2年



緒方 英彰さん
(第58代 主将)
工学部3年

緒方 自分の弓道に自信がある人、高校での弓道でやり残したことがある人、一緒に弓を引きましょう！

後藤 皆さん、応援よろしくお願いします！

総長賞



「最後の活躍」中山哉さん(卒業生)

[1979年2月・箱崎キャンパス]

エピソード:廃止直前となり最後の活躍を見せる福岡市内線。

電停は多くの学生で賑わっていた。

久保総長からのコメント

廃線直前の貝塚線の電車と賑わう学生の姿をよく捉えた写真。

写真が鮮明で構図のバランスがとてもいい。



展示会で作品とともに



総長賞は卒業生の中山さん

箱崎・六本松キャンパスの思い出を残す 九州大学フォトコンテスト

クローズアップ
Closeup

九州大学 フォトコンテストについて

平成17年度から始まったキャンパス移転は来年度、人文社会科学系・農学系などの移転で完了します。キャンパス移転により移りゆく九州大学箱崎・六本松キャンパスの思い出として、在学生、同窓生、元教職員や地元の方々など、縁のある方々から印象深い写真を募集しました。

募集部門は、箱崎・六本松キャンパスの歴史的な建物、特徴的な施設、木々や草花、生物など、季節ごとに多彩な表情を見せる風景の「九大百景部門」と、入学式や卒業式、大学祭などのイベントや、サークル活動、友達とおしゃべりなど、九州大学で過ごす学生や教職員の生き生きとした瞬間をとらえた「キャンパスライフ部門」の2部門。

福岡同窓会長賞



「平成19年学位記授与式」大塚博文さん(卒業生・教職員)
[2007年3月・箱崎キャンパス50周年記念講堂前]

エピソード:式典の終了後、講堂出口から撮影したもの。
盛り上がりにより圧倒されました。

貫福岡同窓会長からのコメント

溢れるようなパワーを感じる力強い作品。
自身の卒業式と比べると女子学生が増え、彩りが鮮やかになったと思う。



展示会での様子



福岡同窓会長賞は卒業生であり、現職員の大塚さん

表彰式および
入賞・入選作品の展示会
を開催

平成29年10月21日(土)「九州
大学アカデミックフェスティバル
2017」において、「九州大学
フォトコンテスト」の表彰式およ
び入賞・入選作品の展示を行い
ました。

応募総数は100点以上で、
全国から応募があり、年齢層も
幅広く、最高齢は87歳でした。
厳正なる審査の上、総長賞
1点、福岡同窓会長賞1点、部
門賞各2点ずつのほか、入賞作
品22点が選ばれました。



表彰式の進行は佐々木理恵NHKキャスター(H19芸術工学府修了)

九大百景部門賞



「噴水の朝」 生田裕也さん(卒業生)
[2015年3月・箱崎キャンパス文系地区噴水]

エピソード:浅春の朝に見られた箱崎文系地区にある噴水の様子。真横から朝日が差し込み、噴水は支柱までもが照らされる。



表彰式で作品の説明をする生田さん



「キャンパスの間を縫うように走る西鉄宮地岳線電車」
足立研二さん(卒業生) [1978年9月・箱崎キャンパス西鉄電車]

エピソード:西鉄博多駅ー貝塚駅間を結ぶ宮地岳線の電車は、文系キャンパスと工学部キャンパスの間を走っており、通学などに時々利用していました。その電車も廃線(1979年2月)になることを知り、箱崎キャンパスの記念写真撮影の一環で撮影しました。中央図書館から農学部キャンパスに入った辺りの電車が見える場所を探してのショットだったと思います。

九大百景部門入選



「宵の口」



「Tree of knowledge」



「駐輪場の桜溜まり」



「合格、そして未来へ。」



「メインストリート」



「雪一面の朝日を浴びる工学部本館」



「移転」



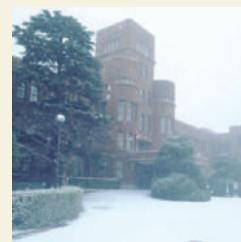
「青空に映える」



「六本松キャンパス最後の桜」



「秋の運動会」



「寒空の静寂」



「ベトナム戦争によるF104E
ファントムジェット戦闘機」



「本部庁舎上空を福岡空港へ
滑空する航空機」

キャンパスライフ部門賞



さんさん
「燦々うなぎ博士」日比野友亮さん(教職員)
[2017年7月・箱崎キャンパス農学部3号館]

エピソード:第一線で活躍し続けるうなぎ博士と、その薫陶を一身に受けるうなぎ研究者の卵たち。



高校生も作品を熱心に見入る



「田島寮祭のあとで」高橋義人さん(卒業生)
[1980年6月・六本松キャンパス]

エピソード:田島寮祭の樽みこしが終わったあと、みんな仲良くなりました。右端にはマレーシアからの留学生の姿も。みんな、どうしているかなあ。



表彰式で作品の説明をする高橋さん

キャンパスライフ部門入選



「タバコを吸いながら」



「歴史との邂逅」



「Farewell」



「楽勝教官リスト」



「箱崎文系食堂、文学部卒業祝賀会」



「大雪の朝は」



「1年生、友達できました」



「天神のと真ん中」



「九州各地の応援団が集まり演舞会を開催!」

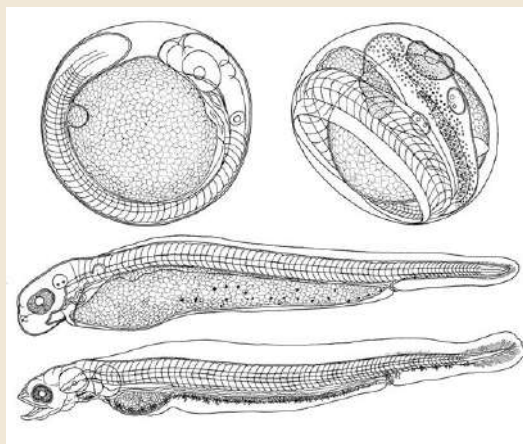


九州大学総合研究博物館
Kyushu University Museum

九州大学総合研究博物館の収蔵資料 魚類の生活史標本



【写真1】1935年に山梨県大泉村で収集されたカワマスのステージ標本



【写真2】1935年に韓国群山で収集されたサクラシラウオ(日本には分布しない)の卵と仔魚のスケッチ。発達が進むさまが精緻に描かれている

た極めて精緻なスケッチの原図も大切に保管されています(写真2)。本コレクションには内田博士が貰い受けたさまざま

(九州大学大学院農学研究院 准教授 望岡典隆、同学術研究員 日比野友亮)

九州大学総合研究博物館には145万点にのぼる膨大な魚類標本が保管されています。これはその中のひとつ、1935年に収集された、サケ科の淡水魚カワマスのステージ(生活史)標本です(写真1)。ひとつの標本瓶の中の個別の管瓶に、卵から孵化仔魚、稚魚に至る成長段階を網羅した標本が採集情報を記したラベルとともに丁寧に納められ、まさにステージ標本と呼ぶに相応しいものとなっています。美しさすら感じてしまうこれらの標本は、農学部水産学科水産学第二講座(現水産増殖学研究室)初代教授内田恵太郎博士によって収集された魚

類生活史標本(内田コレクション)の一部です。

内田コレクションは主として内田博士が朝鮮総督府水産試験場技師時代(1927~1942年)に朝鮮各地で採集したもの、および九州帝国大学在任中(1942~1960年)に九州および日本各地で採集した魚類から構成されています。本コレクションの他に類をみない特色のひとつとして、多くの魚種について卵、仔魚、稚魚に至る初期生活史のシリーズが整っていることが挙げられます。

なお、内田博士は魚類研究者の間では言わずと知れたスケッチの達人で、これらの生活史標本を元に描かれた極めて精緻なスケッチの原図も大切に保管されています(写真2)。本コレクションには内田博士が貰い受けたさまざま

な標本も内包されており、最も古いものでは1912年、すなわち、九州帝国大学が創立してまもなくという時期に朝鮮半島で採集されたイサキなどが所蔵されています(写真3)。内田博士は幅広い交友関係を持ち、日本各地から標本の提供を受けていました。特に九州で集められた標本は重厚で、当時の魚類分布を知ることのできる唯一無二の標本資料です。通常、生活史研究では使用された標本が恒久的に保存されることはほとんどありませんが、多くの標本は良好な状態で保存されており、これらは単に60年以上も前の自然史資料というだけでなく、昭和初期の九州における博物学黎明期の一端を垣間見ることのできる重要性の高いものとなっています。



【写真3】1912年に釜山市場で収集されたイサキ。内田博士は九州帝国大学赴任の際、一部の標本を朝鮮から教育資料として持参した

平成29年度 秋季学位記授与式を挙

新たな時代を切り拓く! 九大生397名の旅立ち

2017年9月25日(月)、伊都キャンパスの椎木講堂にて、平成29年度秋季学位記授与式を挙し、学士課程43名、修士課程168名、専門職学位課程4名、博士課程182名の計397名が新たに本学の学位を授与されました。

式は本年4月以降に学位取得の要件を満たした卒業生・修了生が出席し、留学生修了者の増加や大学の国際化を踏まえ、使用言語を英語で行いました。

久保総長から各課程の代表者に学位記を授与した後の総長告辞では、「九州大学を卒業したことに誇りを持ち、学んだことを生かし、夢を持って今後の未来を切り開いて、大きく飛躍してほしい。」と激励の言葉を述べられるとともに、卒業生・修了生がグローバル社会を力強く牽引するリーダーとして大成することを期待して告辞を結び、はなむけの言葉として贈られました。

また、卒業生・修了生を代表して、システム生命科学府博士後期課程の張晶さんが「九州大学で仲間とともに学べたことを幸せに思います。卒業生がさらなる成功と発展を重ね、夢を叶えることを祈念します。」と答辞を述べました。

なお、式では総長及び各課程の修了代表者が、大学オリジナルで作成したアカデミックガウンを着用することで、厳格な雰囲気の中にも華やかさが漂う印象的な式典となりました。



平成29年度 秋季入学式・外国人短期留学 プログラム開講式を挙

国際社会のリーダーとなる411名が集結

2017年10月2日(月)、伊都キャンパスの椎木講堂において、平成29年度秋季入学式・外国人短期留学プログラム開講式を挙しました。学士課程国際コースの学部生25名、修士課程生156名、博士課程生177名、JTW(外国人短期留学コース)およびJLCC(日本語・日本文化研修コース)の外国人短期留学プログラム生53名の計411名が、新入生として入学しました。

入学者の約9割が外国人留学生であるため、式はすべて英語で執り行われ、久保総長は、「九州大学で学ぶことを誇りに思いながら、グローバル社会を牽引する国際的なリーダーとして大成されることを期待します。皆さんがこれから有意義な留学生生活を送り、留学の目的を達成されることを心から願っています。」と歓迎の言葉を贈りました。

続いて、5名の来賓紹介があり、代表して在福岡アメリカ合衆国領事館のソー・ドミニク総務部・領事部担当領事から祝辞をいただきました。

最後に、新入生を代表して、農学部のTrang Ha Nguyenさん(ベトナム)、理学府博士後期課程のBaruti Yembaさん(コンゴ民主共和国)、JTWのHE Jialinさん(中国)の3名から、歓迎への感謝の意や学生生活の抱負を交えた挨拶が行われ、式は盛会のうちに幕を閉じました。

活を送り、留学の目的を達成されることを心から願っています。」と歓迎の言葉を贈りました。



Topics

01 「第70回九大祭」「第14回芸工祭」を開催

2017年10月7日(土)、8日(日)、伊都キャンパスで第70回九大祭を開催しました。今年度は約26,000人もの来場者があり、好天にも恵まれ、大いに盛り上がりました。

本年の九大祭は「好いとーよ。」のテーマのとおり、好きという気持ちや感謝の気持ちを伝えることができ、九大学生のみならず多くの人々が楽しむことができたイベントとなりました。

本学教員による特別講義、スタンプラリーやオリジナルグッズ販売、学生による教室企画など、多くの企画を行い、花火の打ち上げによる華やかなフィナーレを迎えました。

来年度は、9月に箱崎地区から伊都地区へのキャンパス移転が終了しますので、10月の九大祭はより多くの方に参加していただける学園祭になります。九大祭実行委員会は、「九大祭を益々発展させていきたい」と意気込みを新たにしています。

また、同日、大橋キャンパスで開催された第14回芸工祭では、芸術工学部の学生が、普段の授業や自主製作等で学んだことを生かして、企画から演出まで全てを手掛けて行いました。今年は「Update ver.14.0」をテーマとし、それぞれがより洗練されたパフォーマンスを行い、芸工生の今を発信しました。

飲食物を販売するテント企画や芸術工学部のサークルの展示をはじめとして、ファッションエンターテインメントショー、噴水に設けた

ステージで「夢」を追う若者を描いた演劇パフォーマンス、インスタレーションと呼ばれる体験型の美術空間、音楽、映像・照明・演出を駆使し来場者との交流を図るダンスパーティーなど、芸工祭ならではのさまざまなエンターテインメントを提供しました。また、研究室の紹介や学生の作品を展示する芸工紹介展、現役学生との相談室は、芸術工学部について興味を持つ多くの高校生・受験生が訪れました。最終日の夜には、芸工祭の伝統行事である「火祭」を行い、巨大な火櫓を囲み、太鼓の音に合わせてお互いの功労をたたえあいながら、伝統の踊りを踊りました。今年はルーベンスチューブを用いたり、スクリーンへの映像投影を組み合わせた新たなパフォーマンスを行い、一般の来場者の方々をも巻き込んで盛大なフィナーレを迎えることができました。



九大祭風景



芸工祭を締めくくる歴史の長い火祭(芸工祭)

Topics

02 「福岡マラソン2017」

2017年11月12日(日)、福岡市内から糸島市にかけて「福岡マラソン2017」が開催されました。伊都キャンパスの沿道では、本学の学生、教職員、応援団やチアリーディングチームETOILES(エトワルズ)がランナーを激励しました。

今回が4回目の開催となる福岡マラソンには、抽選で選ばれた約1万1500人余りのランナーが県内外から参加し、秋晴れの中、福岡の都市部から海沿いを通り自然豊かな糸島半島まで42.195kmを走りました。コースの途中、約20km地点に位置する伊都キャンパスは、参加した多くのランナーを迎え、沿道には伊都キャンパス周辺に住む多くの学生や留学生が駆けつけ、熱い声援を送りました。応援団の力強い応援や、チアリーディングチームの華麗な演

技、九大フィルハーモニー・オーケストラによる勇ましい演奏など、学生、教職員らの声援に、笑顔で応えるランナー達の姿が多くみられました。



折り返し地点へ向かう様子

Topics

03 市原市議団及び松野博一前文部科学大臣が水素研究に係る取組を視察

2017年11月19日(日)、千葉県市原市議会議員7名及び松野博一前文部科学大臣が本学伊都キャンパスにおける水素研究に係る取組を視察されました。

市議団及び松野前大臣は、まず、次世代燃料電池産学連携研究センターにおいて、玉上晃理事・事務局長から、本学における研究教育の取組について説明を受け、その後、佐々木一成副学長から、本学におけるエネルギー研究教育の概要と水素エネルギーの位置付けや将来展望について説明を受けられました。続いて、カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所に移動され、松本広重教授やキソク・ユン准教授から、世界トップレベル研究拠点プログラムに採択されている同研究所の電気化学エネルギー変換研究部門や触媒の物質変換研究部門における研究活動について、説明を受けられた後、水素エネルギー国際研究センターにて、本学の所有する燃料電池自動車に試乗されました。さらに、水素材料先端科学研究センターへ移動し、杉村丈一センター長による、

高圧水素利活用のための金属、高分子材料等の研究について説明を受けました。

今回の視察において、市議団や松野前大臣より、燃料電池自動車の開発の現状や水素ステーションの普及方策等について質問や、活発な意見交換が行われました。



市原市議団、松野前大臣と玉上理事、佐々木副学長との記念撮影

Topics

04 駐日ポーランド大使が久保総長を表敬訪問

2017年10月6日(金)、Jacek Izydorczyk(ヤツェク・イゾドルチク)駐日ポーランド共和国大使が、久保総長を表敬訪問されました。

大使は、2005年10月から2007年3月まで、本学法学部に国費外国人留学生として在籍されており、2017年2月に大使に任命、着任されたことから、今回ご訪問に至りました。

表敬訪問には、渡邊公一郎副理事、留学時の指導教員であった法学研究院の土井教授、ポーランドから医系学府に留学中のPiotr Wojewnik(ピョートル・ヴォイエーヴニク)さんが同席しました。

久保総長から本学の概要等についての説明後、大使より留学時のこと、ポーランドの大学の状況等についてお話がありました。大使は、ポーランドのウッチ大学法学部教授の身分を保持されたまま、大使に就任されており、大学の事情に精通した意見交換が行われました。

また、表敬訪問の前には、留学時に在籍されていた剣道部で指導を受けられた白木師範と伊都キャンパスの剣道場にて再会され、お互いに当時を思い出して懐かしんでおられました。大使が留学時に稽古された箱崎キャンパスの剣道場は、移転に伴い現在は閉鎖されていますが、伊都

キャンパスの剣道場がとても立派だとおっしゃっており、剣道部の学生と当時の稽古のお話や、現在の剣道部の状況説明など、質問も交えて和やかに懇談されました。

現在、本学はポーランドの3大学と部局間交流協定を締結しており、毎年数名の学生の派遣と受入れを行っていますが、今後、ポーランドとの交流が更に進んでいくことが期待されます。



左から3人目がJacek Izydorczyk駐日ポーランド共和国大使

法科大学院六本松施設の開所式、および移転記念式典を挙

2017年9月21日(木)、法科大学院を箱崎キャンパスから福岡市中央区の六本松キャンパス跡地に移転し、施設の開所式を挙

式典では、堀野法科大学院長、久保総長の挨拶に続き、久保総長、井上理事・副学長、丸野理事・副学長、玉上理事・事務局長、山縣理事、村上法学研究院長、堀野法科大学院長による記念のテープ・カットが行われました。

法科大学院の施設は、六本松地区に新たに建設された複合ビル「六本松421」の3階に開設され、床面積1,617.88㎡で、100名の学生に対する教育施設です。法廷教室、演習室、講義室(2室)、図書室、学修室等のほか、九大六本松記念室を備えており、連携する弁護士法人九州リーガル・クリニック法律事務所も併設しています。

これを記念して、10月25日(水)に福岡市科学館6階サイエンスホールにて、法科大学院六本松移転記念式典を挙

式典では、堀野法科大学院長、久保総長の挨拶に続き、文部科学省高等教育局松永賢誕専門教育課長、福岡地方裁判所永松健幹所長、福岡地方検察庁山田賀規検事正、福岡県弁護士会の原田直子前会長からご祝辞を頂戴し

ました。その後、本学法学部卒業生で東京同窓会会長の元最高裁判所判事の櫻井龍子氏を講師にお迎えして、「我が国における司法の役割と使命～最高裁判所を中心として～」と題して記念講演会を開催しました。

また、これに先立つ9月13日(水)には、「青陵乱舞の像」除幕式が行われました。これはかつて旧制福岡高等学校同窓会である青陵会が、同校の施設を引き継いだ本学教養部に建てた銅像で、六本松キャンパスの廃止に伴い一時撤去されていましたが、「青陵の街」をコンセプトに再開発が進められたこの地に、街の歴史を引き継ぐシンボルとして再建されました。

その除幕式では、青陵会事務局の安東毅様、草ヶ江校区まちづくり協議会会長の小松至誠様、九州旅客鉄道株式会社常務の津高守様よりご挨拶がありました。山縣理事からも、本学の学生たちが、この乱舞する像に象徴されるように力強く学びながら、素晴らしい青春時代を送り、この地が益々発展していくことを願う旨の挨拶がありました。

六本松跡地には、2018年以降に、裁判所、検察庁および弁護士会館が移転予定であり、この地に法科大学院を移転することで、全国でも他に例のない、法曹三者と密接に連携した法曹養成教育を実現するための環境が整います。本学では、新たな六本松跡地を「リーガル・パーク」の愛称で呼ぶこととし、法曹養成教育をより充実したものにしていきます。



テープ・カット



櫻井元最高裁判事の記念講演



「青陵乱舞の像」除幕式後の記念撮影

Topics

06

平成29年7月九州北部豪雨災害報告会を開催

「九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団」は、2017年9月13日(水)、伊都キャンパスの椎木講堂にて、調査結果の報告会(速報)を開催しました。330名を超える多くの方々が参加し、災害報告について熱心に耳を傾けられていました。

報告会では、豪雨災害の概要、河川災害、土砂災害、災害廃棄物、農地・ため池、森林、グリーンインフラ、ボランティア活動、災害と地域の文化の9つの観点からこれまでの調査で明かとなった点を報告しました。

支援団のメンバーを中心とした講演者は、6つの学会を代表する研究者で、それぞれの専門的な観点から豪雨災害のメカニズムや発生した現象について説明を行いました。今回の豪雨の雨量が桁違いに大きかったこと、発生する土砂が約1千万立方メートルを超えたこと、ため池の崩壊状況や流木と森

林の関係などについて報告がありました。また、学生ボランティアの活動状況、地域の歴史、文化を活用した復旧のあり方についても報告がなされました。土木学会、地盤工学会、応用生態工学会からは、災害復旧の1次提言がなされ、続くパネルディスカッションでは、今後の復旧のあり方について意見を交わし、非常に有意義な報告会となりました。

今後は、研究支援だけでなく、さまざまな分野の研究者が揃う本学の特徴を生かし、地域に根ざした復旧・復興支援に取り組む予定です。



講演の状況



会場の様子

Topics

07

北京大学へ本学所蔵の孫文の書の複製を寄贈

中国の政治家として名高い孫文は、1913年に本学を訪れた際に書(「學道愛人」※)を揮毫しています。

中国北京において、日本国政府関係者と北京大学との会談の席上、呉元常務副校長が過去に本学を訪問した際、目にした孫文の書が話題となりました。

このやり取りを仄聞した久保総長が、日本国政府及び本学と中国政府及び北京大学との間の友好の証として、在中国日本国大使館を通じて北京大学の呉志攀・元常務副校長に同書(複製)を寄贈することになりました。

贈呈式は、2017年9月13日(水)に北京大学で行われ、在中国日本国大使館の川上広報文化部長及び本学北京事務所の李同帰・副所長(北京大学心理学教員、九州大学OB)から呉元常務副校長へ渡されました。

本学からの寄贈に感銘を受けた呉元常務副校長は、2017年9月17日(日)に久保総長が北京市に渡航した際、北京市内で面会し、久保総長へ直接感謝の意を表されました。



贈呈式の様子

左から九州大学北京事務所 李副所長、北京大学 呉元常務副校長、在中国日本国大使館 川上広報文化部長、在中国日本国大使館 菊池一等書記官

※「學道愛人」・・・「道を学び人を愛す」。「道」は学問と同義と捉えられる。「愛人」は孔子の思想の中核にある概念。

「道を学ぶということは人を愛することにつながらなければならない」と解釈できる。

Topics

08 伊都キャンパス南ゲート開通式を挙

2017年10月3日(火)に、一般来訪者に開放した糸島半島西部からの窓口である南ゲートの開通式を挙

行しました。2005年度のキャンパス移転開始以降、本学と糸島市や福岡市西部との結びつきが強くなり、本学学術研究都市構想のもと、「糸島リサーチパーク」や「福岡市産学連携交流センター」において産学連携によるさまざまな研究開発が進められてきました。

南ゲートの開通を機に、本学が地域の皆様方により身近な存在となり、本学の学生、教職員と地域とのさらなる連携交流の発展が期待されています。

開通式では、久保総長の挨拶、糸島市長の月形祐二様、福岡市西区長の中村郁子様の祝辞に続き、月形市長、中村区長、岡崎徳雄前原北部まちづくり推



通り初めの様子

進協議会事務局長、濱地重利九大移転対策協議会会長、久保総長、安浦理事・副学長による、記念のテープカットが行われました。

テープカットの後は、世界初の公用車として導入した燃料電池自動車にて通り初めを行いました。



テープカットの様子

Topics

09 第1回九州大学安全の日講演会、「安全の誓い」モニュメント除幕式を開催

2016年9月に屋久島における授業実施期間中に本学学生が亡くなった事故を受けて本学では10月1日を「九州大学安全の日」と制定しました。

安全の日の取組の一環として、2017年10月19日(木)に学内外の専門家を講師にお招きして、本学安全の日講演会を開催しました。

当日は、伊都キャンパスをメイン会場とし、箱崎、病院、大橋、筑紫の各キャンパス会場へライブ配信し、合わせて約200名が参加しました。

講演会は、荒殿理事・副学長(安全衛生、危機管理担当)の司会で進められ、冒頭、全員による黙祷を行いました。続いて、久保総長から「この事故の記憶を決して風化させることのないよう再発防止策に万全を期していく」と開会挨拶がありました。その後、守田尚弘弁護士(川副・大神・福地法律事務所)から「大学及び教職員に求められる安全管理」と題した講演があり、次に、農学研究院の大槻恭一教授(授業実施における安全管理検討ワーキンググループ長)から「教育における野外活動の安全管理について」と題した講演がありました。

両講師による説明の後、質疑応答では、安全管理におい

て普段感じている懸念や疑問に対する活発な意見交換が行われました。最後に、丸野理事・副学長(教育担当)から、講師及び参加者への謝辞を中心とした閉会挨拶により講演会を終了しました。

本学では、安全管理や安全教育の専門家等による啓発活動を毎年開催し、事故を未然に防ぐための個人及び組織全体の安全意識向上に繋がる取組を続けていきます。

また、同日、現在建物設備中の伊都キャンパス イースト1、2号館テラス内に設置した「安全の誓い」モニュメントの除幕式を行いました。

昨年9月に亡くなった原口翔二郎君に哀悼の意を表し、黙祷を捧げるとともに、決して事故の記憶を風化させることのないよう、再発防止の決意を新たにいたしました。



「安全の誓い」モニュメント

Topics 10

福岡県、春日市との間で

「温室効果ガス排出削減に係る連携と協力に関する包括協定」を締結

2017年10月20日(金)、本学は、福岡県、春日市との間で「温室効果ガス排出削減に係る連携と協力に関する包括協定」を締結しました。

この協定に基づき、本学筑紫キャンパスと春日市内の複数の公共施設に、太陽光発電設備、蓄電池を分散設置し、これらを自営線で繋ぐことで、公共施設が一体となって再生可能エネルギーの利用を行います。また、独自のエリア・エネルギー・マネジメント・システム(AEMS)※によるエネルギー需給の最適管理と蓄電池制御を行うことで、エネルギーの効率的利用による温室効果ガス排出削減、電力コストの抑制及び災害時における防災機能の強化に取り組めます。

締結式では、若山理事・副学長(研究・産学官連携担当)より、環境省からバックアップを受けた本プロジェクトの概要、本学の社会実装の取組、さらに福岡県、春日市と一体となってAEMSを運用する効果などが説明されました。

久保総長、小川知事、井上市長による包括協定書サインの後に、久保総長は、「本協定で官学連携プロジェクトの第一歩を踏み出しました。産学官民連携分野における成果をもとに、大学発ベンチャーの育成やキャンパスを活用した実証実験の拡大にも、益々力を入れて行きたい。」と力強く

語られました。

また、小川知事も「複数の自治体と大学によるエネルギー一面の利用の取組としては全国初となる試みで、『温室効果ガス排出削減』や『電力コストの抑制』といった効果を期待しております」と挨拶されました。続いて井上市長より「近年環境問題への関心に加え、市民の防災意識も高まっています。包括協定に「防災機能の強化」も盛り込まれたことは、大きな意味を持っていると感じております」と挨拶されました。



(写真左から) 松尾嘉三福岡県議会議員、中牟田伸二福岡県議会議員、井上澄和市長、小川洋知事、久保千春総長、若山正人理事・副学長、原田達朗炭素資源国際教育研究センター教授

※エリア・エネルギー・マネジメント・システム(AEMS)・・・ICT(情報通信技術)を用いて複数建物群(エリア)におけるエネルギー使用状況を適切に把握し、省エネルギーおよび負荷平準化等によりエネルギーの合理的仕様や設備の最適運用などを実現するシステム。

Topics 11

伊都キャンパス・イーストゾーン連絡橋の開通式を挙行

センター3号館と新中央図書館を結ぶ全長約120mの「イーストゾーン連絡橋」の完成に伴い、2017年11月13日(月)に「イーストゾーン連絡橋の開通式」を挙行了しました。

連絡橋の完成により、2014年2月に完成している「九大ゲートブリッジ」と併せて全長約240mのイーストゾーンとセンターゾーンを結ぶルートが確保されました。加えて、今後完成予定の「イースト1・2号館」から「ウエスト5号館」まで東西約2kmにわたり、雨に濡れずに車いすの方も移動できる、歩行者専用のキャンパス・モールが開通することになります。

この連絡橋が学生・教職員にとって、安全なキャンパスの移動ツールとして、末永く利用いただける施設となることを願っています。

開通式では、久保総長の挨拶及び工事概要説明に続き、久保総長、安浦理事・副学長、玉上理事・事務局長による、記念のテープカットが行われました。

また、テープカットの後は、新中央図書館からセンター3号館まで、開通式参加者による渡り初めを行いました。



テープカットの様子

受賞のお知らせ

平成29年 秋の叙勲

【教育研究功労】

〈瑞宝中綬章〉

高橋 清

九州大学名誉教授(応研)

元九州大学応用力学研究所長

新海 征治

九州大学名誉教授(工)

高等研究院 特別主幹教授

【看護業務功労】

〈瑞宝単光章〉

松本 裕子

元九州大病院副看護部長

第76回 西日本文化賞

西日本新聞社が西日本地域の文化の発展と向上に貢献された方の業績を顕彰する目的で昭和15(1940)年に創設され、今年で76回を迎えます。

【学術文化部門】

森田 浩介

理学研究院 教授

113番元素「ホニウム(Nh)」を発見、命名し、アジアの国で初めて元素を周期表に加えた功績

仁科記念賞

著名な物理学者であつた仁科芳雄博士の功績を記念し、原子物理学とその応用に関して優れた研究業績を挙げた若手研究者を表彰することを目的として行われている大変権威のあるものです。

安達 千波矢

最先端有機光エレクトロニクス研究センター長

工学研究院 主幹教授

第1回 日本医療研究開発大賞

我が国のみならず世界の医療の発展に向けて、医療分野の研究開発の推進に多大な貢献をした事例に関して、功績を称えることにより、国民の関心と理解を深めると共に、研究者等のインセンティブを高めることを目的としています。

【文部科学大臣賞】

石野 良純

農学研究院 教授

【日本医療研究開発機構(AMED)理事長賞】

橋口 隆生

医学研究院 准教授

平成28年度
特別研究員等審査会専門委員(書面担当)

日本学術振興会が、特別研究員等審査会の書面審査において有意義な審査意見を付し適正・公平な審査に大きく貢献した専門委員を表彰するものです。

谷口 倫一郎

システム情報科学研究院 教授

中尾 久子

医学研究院 教授

波多 聰

総合理工学研究院 教授

中嶋 直敏

カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 特任教授

中村 真子

農学研究院 准教授

若狭 智嗣

理学研究院 准教授

Startup Go! Go! 2017 優勝

Startup Go! Go! は、九州最大のビジネスプランコンテストです。
● 事業内容…ワクチンシールの開発・販売

起業部 NOVI GO(ノビゴ)

石濱 航平

工学府リーディングプログラム
修士2年

岩川 龍之介

芸術工学部 2年

山川 冬馬

芸術工学部 1年

河上 春菜

医学部 1年

高橋 諒

経済学部 2年

井上 宙夢

農学部 1年

後藤 雅宏

次世代経皮吸収研究センター長
工学研究院 主幹教授

グッドデザイン賞

株式会社三光（佐賀県）と
本学大学院芸術工学研究
院との共同研究に協力し
た学生たちが考案した学
生向けノート3種類が
2017年度グッドデザ
イン賞を受賞。



杉本美貴

芸術工学研究院 准教授

曾我部春香

芸術工学研究院 准教授

中島弥姫

統合新領域学府 修士2年

田中理佐子

芸術工学府 修士2年

石田暁基

芸術工学府 修士1年

大久保爽一郎

芸術工学府 修士1年

森永大地

統合新領域学府 修士1年

鳥人間コンテスト2017

鳥人間コンテストは琵琶湖で実施される自作人力飛行機
による飛行距離を競う大会です。

【滑空機部門】（3位）

九州大学鳥人間チーム

Information

大学を紹介する新たな動画が登場！ぜひ、ご覧ください。

大学紹介ムービー ～ショートバージョン～ 公開中！

若者が夢を持てる大学、温かいハーモニーを大切に、世界の課題に挑戦する
大学を九州大学は目指しています。今回のショートバージョンでは、新たに九大
生の活躍にスポットをあて、最先端の研究や特色ある教育、学生生活、国際交
流の取組や魅力を紹介しています。また、久保千春総長や卒業生からのメッ
セージも収録しています。

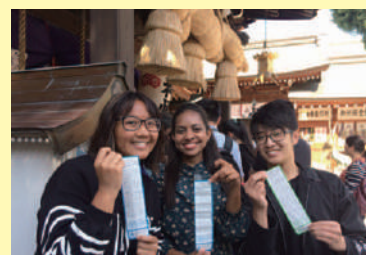
●Webサイト: <http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publicity/movie/>



Catch Your Dream 2017! ～Study in JAPAN～

現役留学生の生活を通して、大学生活および周辺地域などを紹介して九州大学
への留学の魅力を伝えます。彼らがどのような夢をもって九州大学に来たのか、ど
のような学生生活を送っているのか、カリキュラムや留学制度、サークル活動や余暇
の過ごし方、空港到着から生活を始めるまでのサポートなど、ありのままを紹介して
います。

●Webサイト: <https://youtu.be/UjMrfdEfRrk>



九大生が現地からレポート

世界のキャンパス

九州大学から世界へ!!

海外でどんなことを学び、どんな暮らしをしているのか。素直な言葉で語っていただきました。

設立から190年!

長い歴史を持つ北欧の大学で
最先端の航空宇宙工学を学ぶ



工学部
機械航空工学科 3年
山本 真寛
(やまもと まさひろ)



留学国: スウェーデン
留学先: スウェーデン王立工科大学



実機のcockpit



テスト後にクラスメートとバーで打ち上げ

僕は今年の8月から、ストックホルム中心部にあるKTH（スウェーデン王立工科大学）に、約10カ月の予定で、交換留学生として留学しています。スウェーデンはコーヒーの消費量が世界で6番目に多く、キャンパスではコーヒーを持ちながら歩く学生の姿をよく見かけます。

僕は現在、学部3年生ですが、英語での講義が大学院で行われていないこともあり、修士1年生向けの授業を受講しています。専攻は航空宇宙工学で、1学年70人前後の学生が世界中（主にヨーロッパ）から集まっています。学期はクォーター制で、最初のピリオドでは飛行機やロケット、人工衛星などの基礎的な知識や計算方法を身に付けることに重点を置いた授業を受講しました。授業は教授による

講義と、与えられた課題に対してチームごとに答えをだし発表するプロジェクトワークの2つに大きく分けられ、講義で得た知識が、プロジェクトワークを通して、自分の中に定着していくことを実感することができました。KTHではこのように実践的な学びを深めることができ、将来、技術者を目指している方には、最高の環境が揃っているのではないかと思います。

※1つの学期が2つに分かれており、それぞれをピリオドという1つのピリオドにつき2/3の授業を集中して受講する。



授業のプロジェクトワーク

留学生の本音トーク

スウェーデンは税金が高いことで有名ですが、物価も非常に高く、学食でも1,000円近くするのでランチはお弁当が一般的です。



クラスメートのお弁当

留学情報はこちら!

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>



大学情報
スウェーデン王立工科大学

スウェーデン王立工科大学、通称KTHはストックホルム中央駅から地下鉄で約5分のところにあり、世界の大学ランキングでは173位にランクインしています。また、現在のメインキャンパスに移転してから今年で100周年を迎え、設立からは190年にも及ぶ長い歴史を持った大学です。学生の数は1万2千人を超え、教職員も4千人以上おり、特に留学生に対しては手厚いサポート体制が整っています。スウェーデンでは学生と教授の距離が非常に近く、教授を名前で呼ぶことも珍しくありません。また、授業の最初の15分は「アカデミック・クォーター」と呼ばれ、教室の移動や休憩時間になっています。4つあるキャンパスのうち、メインキャンパスは九大並みに広く、教室の移動に15分〜20分かかることもしばしばです。キャンパス内には学科ごとにバブがあり、曜日ごとに違うバブが開きます。そこで学生たちが夜遅くまでお酒を飲みながら、語り合っています。

※2 Times Higher Education : World University Rankings 2018より



留学生体験記

Olsson Emma Maria Christina (エマ)さん

大学院システム情報科学府電気電子工学専攻 特別聴講学生

旅行で訪れた際に福岡の街並みや自然を気に入り、九州大学への留学を決める。北海道や東京、京都への旅行、山登りやサーフィンなどアクティブに活動する。

Tuvskog Johanna Birgitta (ヨハンナ)さん

工学部電気情報工学科 特別聴講学生

日本の文化に興味を持ち、大学で1年間日本語を勉強し、日本への留学を目指す。2017年9月より、希望していた九州大学へ。天神でショッピングするのが大好き。

Q 九大生の印象は？

エマ 私は日本語の授業もたくさん受けているのですが、初めての授業のとき、どうしようと戸惑っていたら、クラスの女の子が「大丈夫？」と声をかけてくれました。みんなとても親切で、3回目の授業の後には数人でランチに行くほど打ち解けました。

ヨハンナ すごく親切で困ったことがあればいつも助けてくれます。学部は男子学生が多く、最初はあまり会話がなかったのですが、サークルからどんどん輪が広がり、今では一緒に遊びに行くほど仲良くなれました。サークルではウェルカムパーティーも開いてくれたんです。

Q 留学のきっかけは？

エマ 私は昔から海外で勉強してみたいと思っていました。4年前に初めて福岡に遊びにきたときに、近くに山や海があるところに惹かれたんです。サーフィンなどのウォータースポーツが大好きな私にぴったりでした。

ヨハンナ 日本の漫画やアニメなどの文化に興味があり、大学では日本語を1年間勉強しました。九州大学に留学していた先輩から、キャンパスは自然が多くて先生も学生も良い人だと聞いていたので、ここを選んだんです。

Q 母国と日本の違いは？

エマ 「はじめまして」の挨拶でハグをしようとしたらびっくりされてしまいました。失敗だったなと今でも反省しています。あとスウェーデンではバスの中でも普通に友人とおしゃべりします。日本ではみんな静かにしてしていますよね。電話していると嫌がられるのは同じですが(笑)。

ヨハンナ 日本ではそんなに寒くない日でもみんな厚着をして「寒いね～」と言っているのがちょっと不思議です。スウェーデンには台風がなく、雨風が強い日でも気にせず街に出かけます。日本では台風の日でも出かけていたのですが、台風が危険だとわかってからは家で大人しくしています。

Q 将来の夢は？

エマ 会社を設立することです！専攻している機械工学をもっと深く学んで、自分で発明したものを世界に広めたいんです。そのためにも、スウェーデンを出ているいろんな国で働いて、もっと世界を見たいと思っています。

ヨハンナ わたしはエマのように将来のプランがしっかりあるわけではないけれど、日本と関係のある仕事がしたいと思っています。スウェーデンに戻っても、日本での貴重な経験を忘れないようにしたいです。

My Favorite



雷山山頂(エマ)

九州大学は海にも山にも近いところが魅力的です。糸島市の雷山に登りました。空気もきれいで、頂上からの景色は最高！



鍋(エマ、ヨハンナ)

サークルで仲良くなったクラスメートや、研究室の友人と家で鍋をしました。



たこ焼き(ヨハンナ)

ショッピングモールで初めて「タコヤキ」を食べました。すごくおいしくてびっくり。今度は友人たちと自宅で作ってみたい。



休日(ヨハンナ)

友人と旅行をしたり、ショッピングに出かけたりと、休日にも楽しんでいます。



椎木講堂

九州大学基金

—未来を切り拓くリーダーの育成—



寄附者 ご芳名

九州大学基金の趣旨にご賛同いただき、多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本号では、平成29年7月15日から10月23日までに寄附申し込みいただいた皆様のご芳名(五十音順・敬称略)を掲載させていただきます。今後とも九州大学基金をよろしくお願い申し上げます。

クレジット決済 による継続的な 支援者の皆様

企業・団体など

ハラールフードプラザ
ナビさん

一尾 泰嗣
一尾 弘子
一尾 浩之
一尾 憲史
一尾 樹梨
一尾 早希子
加藤 裕子
上川 青花
小峯 隆雄
小峯 康子
白木 利美
鈴木 万梨子
告 康祐
中下 美奈子
中野 祐太
奈木野 慎二
野口 隆夫
野見山 昌光
松井 英彦
松井 慶子
山内 祥子
米倉 将文
以上22名、
セトル株式会社・
元気くらぶ伊都・
伊都の湯どころ・
太陽の皿
(計2企業等)

個人
穴井 雅弘
荒木 順子
伊豆 和代
岩村 萌子
植木 清文
大嶋 昭雄

鹿野 伸二
川島 喜晶
国友 和也
小井土 裕巳
榊 祐子
桜川 牙子
立川 陽子
立原 敬一
永淵 正法
鍋島 弘憲
野田 弘子
原田 志津男
平田 泰彦
廣瀬 麻里
藤ヶ谷 剛彦
本田 嘉哉
松下 幸之助
松山 真
三好 治行
村上 直
八幡 憲一郎
八尋 正幸
山道 美季
吉富 聡子
李 潔明
外 匿名希望20名
(計51名)

企業・団体など

株式会社アビオス
ありむら歯科医院
株式会社内田洋行
医療法人S&H
田中ひでき

NTCコンサルタンツ
株式会社
九州計測器株式会社
九州大学
歯学部歯科保存学
第一講座同門会
九州大学歯学部同窓会
九州大学歯科修験会
九州大学台湾同窓会
九州大学東京同窓会

九州電力株式会社
コクヨマーケティング
株式会社
西部ガス株式会社
株式会社
三祐コンサルタンツ
設楽医院
壬子会52年
40周年同窓会
外山木材株式会社
医療法人社団
中島整形外科
西日本鉄道株式会社
日本特殊塗料株式会社
福岡地所株式会社
福岡紙業
株式会社
プロ・デイベイス
株式会社
ホンダ・リサーチ・
インスティテュート・
ジャパン
株式会社
山口フィナンシャル
グループ内九州大学
OB会「どくたく会」
有志一同
ユニップデザイン
株式会社
(計27企業等)

個人
相澤 広記
赤熊 伸彦
我妻 哲
赤間 陽一
赤松 健
赤峰 和幸
秋武 宏
朝日 博之
朝生 幸光
麻生 陽一
安達 千波矢
天野 悦雄

荒木 一彦
荒殿 誠
有川 節夫
案浦 信子
五十嵐 妙子
伊岐 和男
池上 典昭
池田 龍太郎
池田 泉
池田 大輔
池田 憲義
池田 美奈子
石井 明
石井 浩之
石川 正文
石崎 知樹
石橋 美恵子
石山 亮子
伊豆 進
井田 守
伊藤 芳雄
稲吉 泰弘
井上 英二
井上 莞爾
井口 知之
今井 眞澄
今井 良一
今村 佳之
今部 智誠
岩隈 春生
岩下 五夫
岩下 透
岩代 祐子
岩田 彦勝
岩田 健治
岩本 実
上野 恵美子
上野 温子
牛島 和夫
内田 恒子
打道 美和
梅田 和子
梅田 瑞恵
梅津 由理
江頭 和彦
江頭 有三
江口 哲也

江原 理郎
惠良 宏
大内田 知英
大楠 雅弘
大久保 健一
大久保 英雄
大宅 裕子
大坪 号師
大坪 嘉文
大庭 半次
大部 一成
大町 浩二
大森 康平
岡崎 威生
岡村 宣和
岡本 寿美子
小川 民夫
小川 芳明
小黒 康正
尾崎 浩己
小田 逸子
小田 間多
小田 真
小野山 洋平
甲斐 論
片岡 勒
金山 真吾
亀井 吉次
河井田 研朗
川上 俊一
河津 俊幸
河野(北添) 友子
川原 伸也
川本 勝正
菅 浩伸
岸田 壮右
北村 邦彦
北村 勝弘
木下 武久
木下 優文
木原 康
木村 凱彰
木村 俊夫
木元 克治
木本 太
久木田 毅

日下部 二三紀
草刈 伸一郎
工藤 國夫
久原 美保
久保 晃弘
久保 春治
久保 進
久保 貴彦
久保 善博
久保田 次郎
久保田 盛利
熊谷 修三
熊野 厚司
公文 新
栗原 孝嘉
栗山 次郎
黒木 和彰
黒木 昌一
黒田 幸治
黒田 健一
桑原 健郎
郷 徳郎
故 小林 宏
郷 俊介
神谷 真美
古賀 和夫
古閑 たか子
古賀 千種
古賀 紀昭
古賀 典篤
小島 憲二
後藤 由紀
後藤 嘉津也
五島 正人
後藤 新一
木實 恒喜
小林 洋一
是久 清行
酒井 敬子
坂本 幸繼
櫻井 龍子
篠井 隆志
佐々木 孝昭
佐々木 裕之
笹田 浩隆
笹田 祥一
佐田 洋平

猿渡 稔
澤口 武彦
塩川 洋一
塩川 賢輔
塩塚 康仁
志賀 稔夫
執行 稔夫
篠原 昭
篠原 茂隆
柴田 祐二
島居 剛志
島田 良一
自見 榮祐
城 一裕
城崎 陽吉
白谷 久子
進 大介
秦 喜秋
新海 征治
陣内 隆一
末信 真二
末弘 司
杉村 和俊
杉本 秀也
杉山 佳生
鈴木 由喜
瀬藤 昭
高谷 翼
高石 恭輔
高園 明子
高橋 昭吾
高橋 満洲雄
高原 信一
高山 昌照
瀧山 龍三
武内 俊造
武内 寿一
竹内 逸彦
竹村 雅元
田崎 康夫
田崎 勇輔
田代 裕
田代 公熙
立花 宏文
立石 敢
田中 義一
田中 健二

会員証をお持ちの方
有効期限を
ご確認ください！

九大会員証をご確認ください！！

2018年3月までの有効期限の方は、この機会に更新をお願いします。

九大会員の制度がはじまり、5年が経過しようとしています。初期に九大会員証をお送りした方が多く、今年3月に有効期限を迎えます。九大会員の特典も充実してきています。ぜひ引き続き、九大会員としてご支援をお願いいたします。対象者には、ご案内の郵送物もお送りしていますので、あわせてご覧ください。引き続き、ご支援のほどよろしくお願い致します。

※2014年度～2016年度にご寄附いただいた方の一部には、有効期限が更新された会員証をお送りしていない場合があります。その方には2018年3月頃に新しい有効期限の会員証をお送りします。

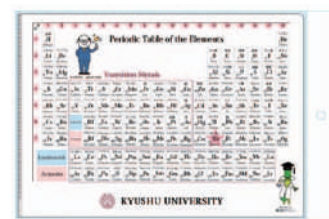


クレジットカードによる継続的なご寄附又は、単回で1万円以上のご寄附をいただいた方に、新しい有効期限の会員証をお送りします。

ニホニウムオリジナルクリアファイルプレゼント 九大会員 新規入会・継続更新キャンペーン実施中

キャンペーン
受付期間
2017.11～2018.1

2017年11月～2018年1月の3か月間、九大会員新規入会・継続更新キャンペーンを行っています。キャンペーン期間中、クレジットカードによる継続的なご寄附(キャンペーンの対象は年間2千円以上の継続寄附)もしくは、単回で1万円以上のご寄附をいただき、新規入会・更新された方に、「森田浩介教授&ニホニウムオリジナルクリアファイル」をプレゼントします。ぜひこの機会に入会・更新いただき、ご支援をお願いいたします。



森田浩介教授&ニホニウムオリジナルクリアファイル

九大会員の皆様へ ～新たな特典が加わりました～



株式会社 博多座 Webサイト: <http://www.hakataza.co.jp/>

- ・博多座二月花形歌舞伎 A席通常15,000円(税込)
→九大会員特別販売価格13,000円(税込)
- ※対象公演日 平成30年2月7日(水)～14日(水)の昼夜(10日(土)夜、11日(日)夜は除く)
- ・ご利用にあたってはチケットぴあ九大会員専用チケット電話(092-708-9975)にてご予約ください。
(予約受付期間:平成30年1月12日(金)～28日(日)【受付時間10時～18時】)
- ※お電話の際に「博多座二月花形歌舞伎の九大会員での予約」の旨お伝えください。
- ※申込み日を含め4日以内にセブン-イレブンにてお引換ください。

ご注意事項

- ・博多座窓口およびインターネットでのご予約は承っておりません。・座席指定はできません。また、ご希望の日時の公演チケットが完売となることもございますのでご了承ください。
- ・未就学児童のご入場はご遠慮ください。



スポットライト Webサイト: <http://www.spot-light.jp/>

- ・九大会員および同伴者の皆さま分、
1ドリンク無料または飲み放題料金500円割引になります。
- ※東京2店舗(新宿・新橋)、福岡2店舗(天神・大名)で利用可能。
- ・スポットライトは、本学の同窓生が経営する歌謡曲BARです。

ご注意事項

- ・来店時に九大会員証を提示し、特典を利用する旨を申し出てください。・無料ドリンクは1,000円(税込)までのものに限り、その他の割引との併用およびクレジットカードでの決済はできません。



歌謡曲BAR スポットライト新宿

このほかにも多くの特典をご用意していますので、ぜひご入会いただきますようお願い申し上げます。

○九大会員に関するお問い合わせはこちら 九州大学総務部同窓生・基金課

〒819-0395 福岡市西区元岡744 TEL:092-802-2150 E-mail:k-kikin@jimu.kyushu-u.ac.jp

九州大学基金ウェブサイト 九大会員 検索 <http://kikin.kyushu-u.ac.jp/>

医学部同窓会
糟屋支部総会

平成29年6月29日(木)、九州大学医学部同窓会糟屋支部総会を開催しました。今回はレストランひらまつ博多に場所を変えて、29名の参加者で実施しました。

総会での報告の後、富永隆治医学部同窓会長(昭和50年卒)から、医学歴史館の運営状況と伊都キャンパスの今後の計画等について講演があり、的確に解りやすく説明していただきました。

その後懇親会に移り、今回は松尾喬之糟屋医師会長も出席され、例年の如くソムリエの志方建先生(昭和49年卒)が選んでくれたシャンパンで乾杯をして、和やかに会は進みました。

新しく参加してくれた会員の自己紹介もありました。糟屋郡は北部、中部、南部と広い範囲に会員が広がっていますので、日頃直接に付き合う機会がない先生方の活躍ぶりが分かる良い機会でした。年一回開かれる会ですが、

継続する事で同窓生の親睦が深まり、優秀な会員の入会で地元根差した医療活動が続いていることは心強い限りです。来年の会も楽しい会にしたいものです。



大岩俊夫先生(昭和32年卒)撮影の記念写真

加野資典(昭和43年卒)

〈連絡先〉〒811-3111 福岡県古賀市花見南1丁目2-15 kano@houshikai.or.jp



文学部同窓会総会・60周年記念式典

昭和32年に創立された文学部同窓会は、今年度総会および創立60周年記念式典を9月30日(土)に開催いたしました。平成30年9月末までに文学部は箱崎を離れ、伊都キャンパスへ移転します。このため箱崎キャンパスで開催される最後の総会となりました。

文系講義棟101教室(階段教室)での総会は、船津正明会長(昭和37年卒)のご挨拶で始まりました。文学部同窓会創立60周年記念事業の一つである募金事業への厚いご支援によつて奨学金制度が充実されたこと、引き続き記念事業を進めていくことなどを述べられました。名誉会長の久保智之文学部長(昭和56年卒)のご挨拶が続く、総会議長には渡邊由紀子氏(昭和61年卒)が選出され、全ての議案等が承認されました。

続いて、奨学会奨励金の授与式が行われました。創立60周年記念事業の柱としてこれまでの奨学金を拡充し、大学院生の優秀な研究を奨励する優秀研究賞(8名)に加え、公募方式で学部生も含む在学中の同窓会会員の優秀な活動を応援する優秀活動奨励賞(2組)が設けられ、それぞれ奨励金が授与されました。その後、受賞者による研究内容・活動計画の報告が行われ、後輩たちの熱意溢れる報告に一同感じ入った次第です。これらの報告は次号『会報』61号に掲載予定です。奨学会事業を一層充実するため募金事業も継続しておりますので、会員の皆様には後輩のためのご支援を引き続き賜りますようお願い申し上げます。



総会で挨拶される船津会長



文学部同窓会のロゴマークができました



同窓会奨学会奨励金の授与式



文学部会議室での60周年記念式典

文学部同窓会副会長 高野和良(昭和63年卒)

〈連絡先〉文学部同窓会事務局 TEL:092-632-6070 (通常は留守番電話にて対応します) E-mail:bundo@lit.kyushu-u.ac.jp

〈関連Webサイト〉http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/alumni/



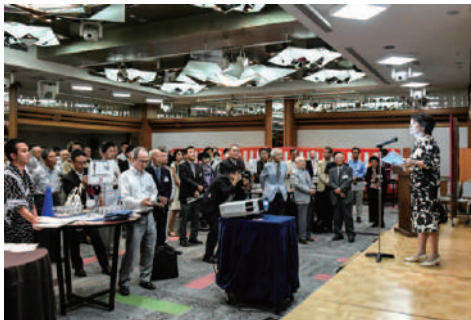
東京同窓会総会・ SummerFesta 2017開催

SummerFestaは、世代を超えた交流を図ると共に人脈形成により今後の自分にプラスとして頂く事を願い、毎年8月最終土曜日に行っている。今年は会場を銀座に移し開催。久保総長始め大学及び関連団体からも20余名の方が、そして同窓生からは宇宙飛行士の若田光一さん(平成元年・工学研究科修士課程修了)、スーダンで医療奉仕に携わる川原尚行さん(平成4年・医学部卒)を始め、20代から80代の方々まで多士多彩な360余名にご参加頂いた。

今回のトピックスは女性会長が誕生したこと。その方は櫻井龍子さん(昭和44年・法学部卒)で、櫻井さんは労働省その後最高裁判事として活躍された方。今後は女性ならではのしなやかな運営が期待される。

さて、このFestaの企画・運営には10余名の若い方々に推進メンバーとなり、尽力頂いている。わずか数時間で終わるイベントながら、その準備はなかなか大変で、5月から10数回の企画会議を重ね、やっと実行にこぎつけているのが実情。

このビッグイベントが終わり、秋



櫻井新会長ご挨拶



若田さん・川原さんご挨拶

東京同窓会事務局 榎崎光雄(昭和46年・法学部卒)
〈連絡先〉kyudaitokyo@gmail.com



九州大学工学部銘板モニュメント除幕式

平成29年10月21日(土)、九州大学工学部銘板モニュメント除幕式を執り行いました。このモニュメントは、「九州帝國大學」と刻まれた九州大学に唯一現存する銘板(建物を示す金属製の表札)をレプリカにして用いたもので、工学部の学生並びに教職員ら多くの同窓生に「箱崎の工学部100年の歴史を示すとともに、伊都のこれからの工学部100年を見守るシンボルとなしてほしい」という願いのもと、工学部同窓会から九州大学に寄贈する形で、ウエスト4号館そばに建てられたものです。

ライブ中継され、多くの父兄や関係者にも臨場感のある式典の様子をご覧いただきました。

このたび、それを記念して行われた除幕式は、工学部同窓会の高松洋会長(昭和60年・動力機械工学専攻修了・現工学部長)の挨拶で始まり、多くの参列者が見守る中、高松会長、久保千春総長、梶山千里元総長を含む6名により除幕が行われ、続いて福江一郎副会長(昭和46年・機械工学専攻修了)より、今後の九大工学部への期待と同窓会の発展を祈念したご祝辞を頂戴しました。

この様子は、別の会場で開催した「工学部在学生保護者のためのオープンキャンパス2017」でも



除幕後の様子。右から尾崎龍夫元工学部長、梶山元総長、久保総長、高松会長、福江副会長、安浦理事



式典後、モニュメントを囲む列席者のみなさま

九州大学工学部同窓会事務局

〈連絡先〉〒819-0395福岡市西区元岡744番地 九州大学工学部等総務課庶務係内
TEL:092-802-2728 FAX:092-802-2712 E-mail:koo8100@jimu.kyushu-u.ac.jp
〈関連WEBサイト〉<http://www.eng.kyushu-u.ac.jp/alumni/>



アカデミックフェスティバル2017 (ホームカミングデー)

平成29年10月21日(土)、伊都キャンパスの椎木講堂をメイン会場として、「九州大学アカデミックフェスティバル2017(ホームカミングデー)」を開催しました。

「社会とともに発展する大学」を目指し取組を進めている本学の「今」について、本学に在籍経験のある方々はもちろん、高校生、地域住民の方々など、幅広く社会の皆様に参加しながら知っていたいくイベントとして、昨年から実施しています。

当日は、久保総長、福岡同窓会の眞正義会長(九州電力株式会社代表取締役会長)の挨拶の後、山川賞^(※1)やC&C^(※2)の歴代受賞者がそれぞれの取組を発表したほか、本学大学院理学研究院の森田浩介教授を囲んだトークショーが行われました。その後の九州大学フォトコンテスト表彰式では、100点を超える応募作品の中から選ばれた6作品が表彰され、各受賞者に表彰状と副賞の目録が贈呈されました。

恒例の交歓会に引き続き、大会議室では、NHK福岡放送局キャスターの佐々木理恵氏(平成19年・芸術工学府修士課程修了)の司会・進行の下、共創学部を紹介

を含め、さまざまな分野の教員によるミニ講義が行われ、超満員となりました。

また、福岡同窓会による講演会、男女共同参画推進室によるOpen Cafe 2017では、各分野で活躍する同窓生がゲストスピーカーとして登壇したほか、「将来の夢を切り拓く」高大連携「『世界に羽ばたく高校生の成果発表会』と題した新しい催しには、大勢の高校生が参加しました。

さらに、椎木講堂の各所に多数のブースが出展され、各種の物販に加え、本学の研究成果や自治体・同窓会等の活動状況等が紹介されました。椎木講堂外においても、例年好評の伊都キャンパスバスツアーを実施し、7台のバスが満席となったほか、工学部の方で実施した銘板モニタメント除幕式及び在学生保護者のためのオープンキャンパスにも多数の参加があり賑わいました。

高校生は昨年を大幅に上回る約400名が参加し、全体では1,700名を超える来場者を迎え、過去最大規模となったイベントは盛会のうちに終了しました。

九州大学総務部同窓生・基金課

〈連絡先〉TEL:092-802-2157 E-mail:academic-fes@jimu.kyushu-u.ac.jp

〈関連Webサイト〉http://kikin.kyushu-u.ac.jp/academic_festival/



トークショーの様子



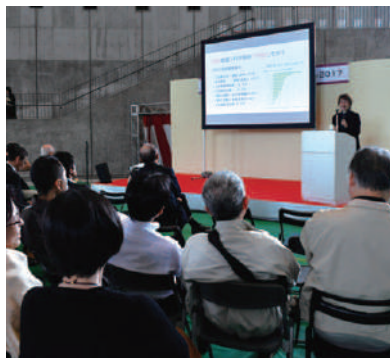
交歓会の様子



「九州大学の“今”がよくわかるミニ講義」の様子



ブース出店の様子



「福岡同窓会ミニ講演会」の様子



久保総長による挨拶

(※1) 山川賞: 山川健次郎初代総長の名を冠した賞であり、九州大学教育憲章が指向する、人間性、社会性、国際性、専門性に対して優れた志を持ち、学業成績が優秀な学部学生を選考し、奨励金を給付するものです。

(※2) チャレンジ&クリエーション(C&C): 本学に在籍する院生や学生が自ら企画するユニークな研究・調査プロジェクトについて、助成、実行をサポートする全学事業です。



住所変更ほか、発送についてのお問い合わせは、封筒記載の連絡先へお願いします。

九州大学広報室	TEL:092-802-2130	E-mail:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学学生後援会	TEL:092-802-5968	E-mail:gaggkouenkai@jimu.kyushu-u.ac.jp
九州大学同窓会連合会	TEL:092-802-2158	E-mail:sycdo-rengo@jimu.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY